

2024 年度

入学試験募集要項

外国人留学生選抜

東京音楽大学

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

東京音楽大学では、入学者が本学において実りある学びを円滑に行えるように、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を定めています。これは、本学を受験する皆さんに、入学前に身に付けておいていただきたい能力や姿勢を示す基本方針です。本学の入学試験や選抜方法には、アドミッション・ポリシーが反映されています。

- 大学において専門的に音楽を学ぶにあたり、楽譜を読む力、音を聴く力、表現の基礎となるテクニック、様式を捉える力、楽典の知識が、一定のレベルに達していることが重要です。
- 音楽の学習には外国語も必要です。
- 専攻によっては、ピアノ演奏や新曲視唱、新曲視奏の基礎的な能力も必要です。各専攻のアドミッション・ポリシーは次の通りです。

声楽専攻

●声楽芸術

音楽～歌～を愛し、演奏家、教育者などを目指して学ぶための資質を有し、熱意を持って努力し続けることのできる人材を求めます。また、国際的にも活躍できる実力を持った音楽家の育成を目指すという観点から、その学習のためのより高い資質、より強い意欲が必要です。声を楽器として創り上げるために、基礎的な歌唱力、語学力が必要です。また、周囲との協調性や社会性も身に付け、豊かな人間性を育むために、広い視野を持って学ぶ姿勢が望まれます。

器楽専攻

●ピアノ

ピアノ音楽の学習を通して豊かな人間性、社会性を育むために、ピアノに限定することなく音楽に関して幅広く関心を持ち、外国語を始めとする教養科目にも勉学意欲のある人材を求めます。ピアノ演奏の系統的な学習を円滑に行うために、基礎的なピアノ演奏技術と演奏スタイルを習得していることが必要です。

●ピアノ演奏家コース

プロフェッショナルな音楽家として社会で活動できるよう、ピアノに限定することなく音楽に関して幅広い体験を積み、国内外を問わず活動の場を拓けていく意欲のある人材を求めます。器楽専攻ピアノよりも高度なピアノ演奏能力を目指すために、一定水準以上のピアノ演奏技術と演奏スタイルを習得していることが必要です。

●ピアノ・創作コース

ピアノを中心としながら、創作、即興、伴奏付けなど音楽活動を幅広く行う意欲のある人材を求めます。器楽専攻ピアノのアドミッション・ポリシーに加え、自作曲の創作経験が必要です。

●チェンバロ

19世紀音楽とは異なる音楽的価値やそれに応じた解釈力を学ぶことが要請されるため、音楽理論や楽器の構造への関心と歴史的な視野を持って意欲ある学びのできる人材を求めます。基礎的なチェンバロ演奏技術を習得していることが必要です。

●オルガン

オルガン奏法を多面的に学ぶために、演奏だけではなく、楽器の構造や歴史、音楽理論なども積極的に学ぶ意欲のある人材を求めます。基礎的なオルガン演奏技術を習得していることが必要です。

●弦楽器

弦楽器独特の美しく豊かな響きを追求し、様々な音楽分野での活躍を希望する人を求めます。各楽器において、基礎的な演奏技術と表現力を有していることが必要です。

●管・打楽器

管楽器と打楽器において、高度な技術と豊かな表現力の獲得を目指し、様々な音楽分野での活躍を希望する人を求めます。各楽器において、基礎的な演奏技術と表現力を有していることが必要です。

作曲指揮専攻

●作曲「芸術音楽コース」

様々な芸術に対して興味を持ち、将来的に個性ある発信ができる人材を求めます。和声学の知識、及び楽曲制作のための技術と様式感を備えていることが必要です。

●作曲「ミュージック・メディアコース」

ポピュラー音楽を始め、様々なジャンルの音楽について興味を持ち、かつ音楽に打ち込む真剣な姿勢や熱意を備えている人材を求めます。コードネームの理解と伴奏付けの能力、基本的な和声の知識を持ち、自作曲のデモ演奏または基本的なデモ音源制作ができることが必要不可欠です。

また、今後コンポーザー、アレンジャーとして、演奏やパフォーマンスといった音楽に関わる部分に興味を持つのはもちろんのこと、現在音楽を取り巻くあらゆるツールに関しても、幅広い興味を持ち、積極的に自身の活動に生かすことのできる意欲を持つ人材を求めています。

●指揮

指揮者としての将来像を明確に描き、リーダーとして活躍できるように努力する覚悟を持っている人材を求めます。そのために、高いレベルの音楽基礎能力と、コミュニケーション能力が必要で

音楽文化教育専攻

音楽文化に関心を持ち、その研究と実践を通して社会に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

- 1 多様な音楽文化への幅広い関心を持ち、実践活動に参加してきた者。
- 2 将来の音楽教育者及び音楽文化の実践者の基礎となる音楽知識や技術を、高等学校までの音楽の授業及び課外活動を通して身につけた者。
- 3 論理的な思考ができ、自分の考えを文章や口頭で表現できる者。

ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

以下のような意欲のある人材を求めます。

- 音楽とコンピューターが好きで好奇心にあふれる者。
- 音楽とICTを武器に広くビジネス界で貢献したい者。

1. 募集学部・学科（専攻）および募集人員

東京音楽大学 音楽学部 音楽学科			
専攻	区分	楽器	募集人員
声 楽	声楽芸術		若干名
器 楽	鍵盤楽器	ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン	
	弦 楽 器	ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター	
	管 楽 器	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフーン、ホルン、トランペット、トロンボーン、バス・トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム	
	打 楽 器	ティンパニ、小太鼓、マリンバ	
作曲指揮	作 曲	「芸術音楽コース」 「ミュージック・メディアコース」	
	指 揮		
音楽文化教育			
ミュージックビジネス・テクノロジー			

※ミュージック・リベラルアーツ専攻受験希望者は、「ミュージック・リベラルアーツ専攻 総合型選抜(外国人留学生を含む)」または「ミュージック・リベラルアーツ専攻 総合型選抜[秋学期入学者] ※外国人留学生を含む」の各募集要項をご確認の上、『総合型選抜 ミュージック・リベラルアーツ専攻』で出願してください。

注意事項

- ①複数の専攻を併願することはできません。
- ②本学への入学時期は、2024年4月です。
- ③授業は、日本語で行われるので、十分な日本語能力が必要です。
なお、本学は予備教育としての日本語教育機関は設置していません。

2. 出願資格

以下に掲げる条件をすべて満たす者としてします。

- (1) 外国籍を有し、外国において学校教育における12年の課程を修了した者(2024年3月修了見込み者含む)又はこれに準ずる者で、日本国文部科学大臣の指定した者。
ただし、在留資格「永住者」を除く。
- (2) 「日本語能力試験(JLPT)」N2以上を取得している者。
- (3) 入学後「留学」の在留資格に変更できる者。

3. 選考方法

一般選抜(A日程)に準ずる。詳細は11ページ以降の「課題」を参照してください。

【「東京音楽大学 認定試験(楽典)」の実施について】

東京音楽大学 夏期受験講習会を「全受講」、「基礎クラス」で受講する者は、無料で「東京音楽大学 認定試験(楽典)」を受験することができます。試験で認定された者は、2024年度入学試験における「楽典」の試験科目が免除となります。

詳細は、受験講習会要項をご確認ください。

4. 入学検定料

出願期間内に Web 出願サイトから決済手続きをしてください。お支払い完了後に決済完了メールが送信されます。

専攻	区分	楽器	検定料
声 楽	声楽芸術		38,000 円
器 楽	鍵盤楽器	ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン	
	弦 楽 器	ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター	
	管 楽 器	フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーン、バス・トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム	
	打 楽 器	ティンパニ、小太鼓、マリンバ	
作曲指揮	作 曲	「芸術音楽コース」 「ミュージック・メディアコース」	
	指 揮		
音楽文化教育			10,000 円
ミュージックビジネス・テクノロジー			

5. 日程一覧

出願期間	2023年9月26日(火)～10月3日(火) 消印有効
試験日程	2023年10月27日(金)～10月29日(日)
合格発表	2023年11月10日(金)15:00～11月13日(月)17:00 本学ホームページにて発表 *電話等での問い合わせには応じられません。
入学手続期間	2023年11月13日(月)～11月20日(月) 消印有効

●試験会場・日程の詳細は、試験初日の3日前までに、メール等でお知らせします。
試験日時・会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。

6. 出願手続

(1) 出願の流れ

出願方法は Web 出願のみとなります。本学ホームページの「入試案内(学部)」にある「出願ガイド」内の「出願情報の登録」より、下記の手順に沿って出願を行ってください。

※出願書類の郵送を終えて出願完了となります。

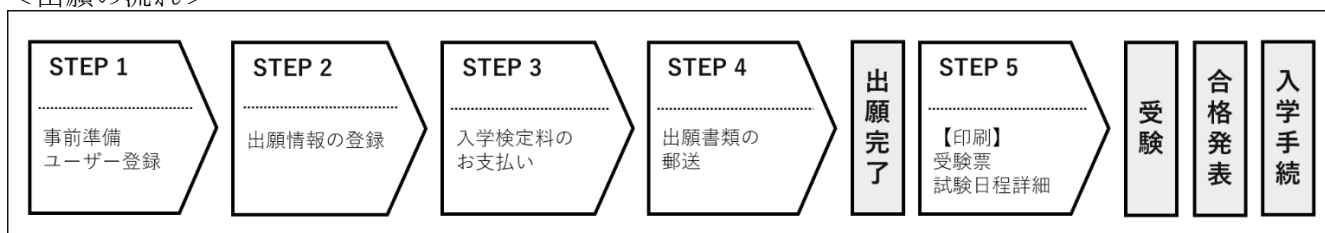
<「出願ガイド」、「出願書類ダウンロード」など Web 出願に必要なページの掲載場所>

出願ガイド

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>



<出願の流れ>



STEP 1

① Web 出願にあたっての事前準備（詳しくは「出願ガイド」をご覧ください）

- インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかの機器
- メールアドレス

各キャリアのメールアドレスを使用する場合は、ドメイン「@grapecity.com」「@sbpayment.jp」「@contact.grapecity.com」「@tokyo-ondai.ac.jp」からのメール受信ができるように設定を行ってください。
入学試験用に新たに作成される場合はフリーアドレス(@yahoo.co.jp や@gmail.com 等)の取得を推奨します。

- プリンター*
 - PDF 表示・印刷ソフトウェア
 - 本人写真(カラー写真データ)
- *自宅にプリンターがない場合、コンビニエンスストア等のマルチコピー機を使用してください。

② 「出願ガイド」からユーザー登録を行う

同サイト内の「Web 出願サイトはこちら」からユーザー登録を行ってください。

※今年度本学受験講習会等で登録をしている方は再登録不要です。

※昨年度以前、メールアドレス登録画面で「来年度もこのメールアドレスを利用する」にチェックを入れた場合は再登録不要です。

(「出願ガイド」:<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>)

③ 出願書類を確認・準備する

募集要項に記載されている必要な書類を確認・準備してください。

STEP 2

「出願ガイド」から出願登録を行う

募集要項、「出願ガイド」を確認した上で、同サイト内の「Web 出願サイトはこちら」から出願登録を行ってください。

STEP 3

入学検定料のお支払い

「コンビニエンスストア」、「クレジットカード」、「Pay-easy」で期限までに検定料をお支払いください。

※検定料のほかに支払手数料が必要です。

STEP 4

出願書類の印刷・記入および出願書類郵送

①Web 出願サイトから志願票・宛名ラベルをダウンロードし、ページの拡大縮小はせずに A4 サイズで印刷してください。

②本学ホームページ「入試案内(学部)」から「出願書類ダウンロード」を選択し、受験する入学試験の必要書類を印刷・記入してください。「出願書類チェックリスト」を使用して、出願書類が全て揃っているか確認し、他の書類と一緒に提出してください。

(「出願書類ダウンロード」:<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam>)

③レターバックライトを使用して、表面に宛名ラベルを貼り、出願書類を郵送してください。

※レターバックはポスト投函できますが、出願期限最終日に郵送する場合は、郵便局の窓口に出すことをお勧めします。

郵送をもって出願完了となります。

STEP 5

受験票の印刷

出願書類の確認後、東京音楽大学から「受験票印刷のお知らせメール」が届きます。

受験票の記載事項が志願票に入力した内容と一致しているか確認してください。

メールの案内に従って「受験票」を印刷し、受験票は試験会場に持参してください。

また、試験当日のスケジュールについてお知らせを送信します。内容をご確認のうえ、受験するようにしてください。

(2)出願書類一覧

以下の該当する書類を一括して、宛名ラベルを貼付けの上、「レターバックライト」で郵送してください。なお、以下の書類は「A.Web 出願サイト」または「B.出願書類ダウンロード」よりダウンロードし印刷してください。

(「出願ガイド」内「Web 出願サイトはこちら」からアクセス)

A. Web 出願サイト(ユーザー登録・出願情報の登録、志願票・宛名ラベル印刷)

<https://lsg.grapecity.com/tokyo-ondai/App/Account/login>



B. 出願書類ダウンロード

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam>

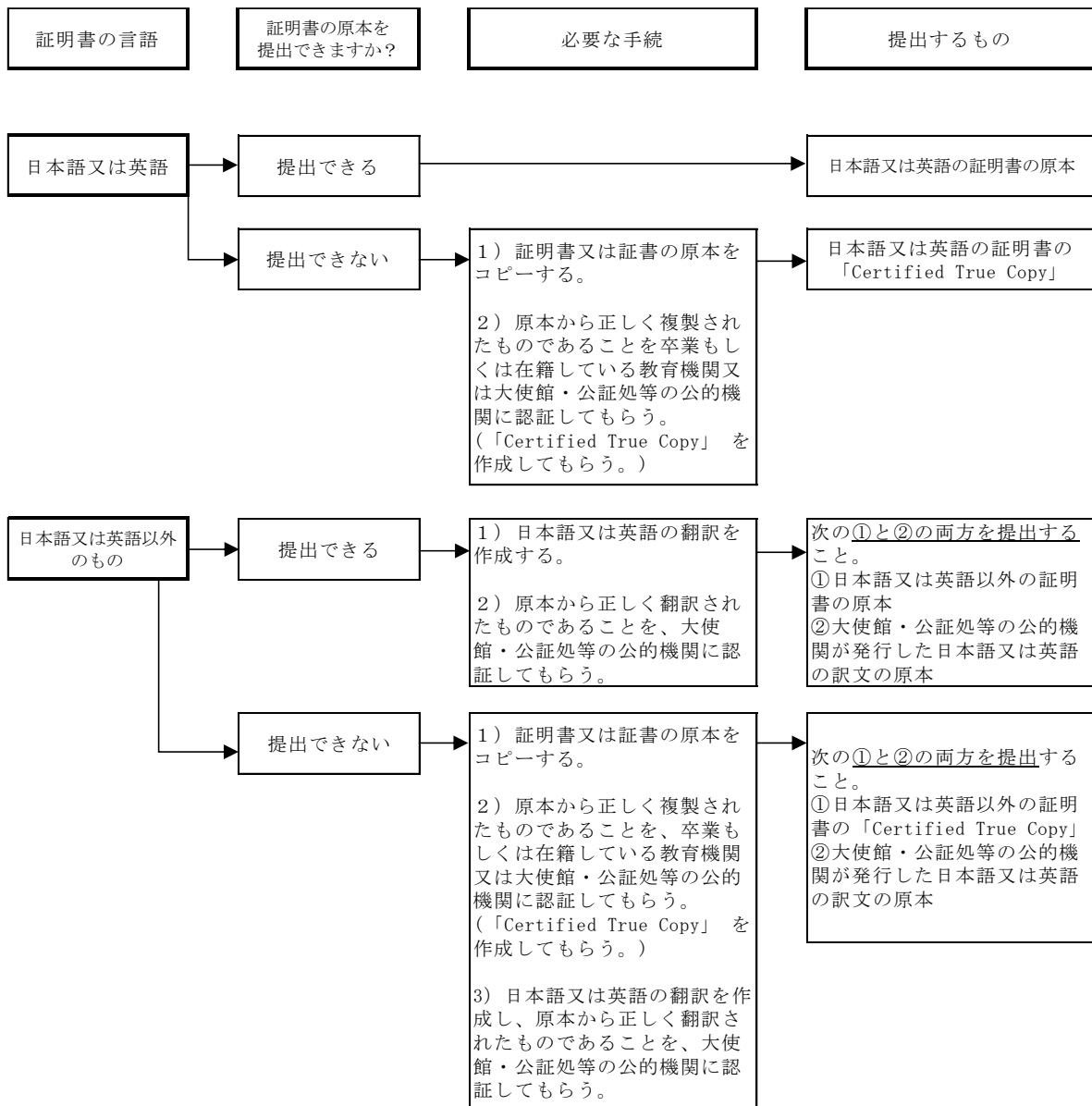


出願書類		注意事項
1	志願票	前頁AのURLから印刷してください。
2	宛名ラベル (レターパック仕様)	
3	曲目記入票 「専攻実技」	前頁BのURLから 外国人留学生選抜 の様式を印刷してください。
4	曲目記入票 「副科実技(ピアノ)」	
5	個人調査書	
6	出願書類チェックリスト	
7	出身高等学校の卒業(見込)証明書	出身高等学校発行のもの(コピー不可)。 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者、国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格取得者、バカロレア資格(フランス共和国)取得者は当該試験等の成績証明書をもって調査書に代えます。提出方法は7ページ「卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項」を参照してください。
8	出身高等学校の成績証明書	
9	パスポートのコピー	氏名・生年月日・パスポート番号・写真・有効期限のページをA4サイズ用の紙にコピーして提出してください。ビザのページではありません。
10	日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書	「日本語能力試験(JLPT)」N2以上の「日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書」の <u>原本</u> を提出してください。 ※「日本語能力認定書」の提出は必要ありません。
11	在留カードのコピーまたは住民票	日本国内在住者のみ、提出してください。 ①居住する区・市役所で発行される出願時に有効な在留カードのコピーまたは住民票を提出してください。 ②在留カードのコピーを提出する場合は、裏面に記載事項がなくても、必ず表・裏両面をA4サイズの用紙にコピーしてください。 ③住民票を提出する場合は、在留資格・在留期間・在留期間満了日の記載を含むもので、出願時の3ヵ月以内に発行されたものを提出してください。
12	伴奏譜	声楽、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの志願者は伴奏譜を出願書類に同封してください。伴奏譜の作成方法は25ページ「伴奏譜の提出について」を参照してください。

13	創作曲楽譜	ピアノ・創作コース志願者のみ提出してください(25 ページ参照)。
14	認定試験(楽典)認定証のコピー	今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験(楽典)で認定された者は、本学発行の認定証のコピーを提出してください。

卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項

- 卒業証明書、成績証明書等の証明書類は原本(卒業もしくは在籍している教育機関が発行し、証明した書類)、または教育機関・大使館・公証処等の公的機関より原本からの正しい複製であるという証明(Certified True Copy)を受けた書類を提出してください。
- 日本語または英語以外の言語で記載された証明書は、大使館・公証処等の公的機関または、翻訳者としての資格を有する翻訳者による翻訳文を原本に添付してください。
- 全ての提出書類の氏名・生年月日等はパスポートの記載と一致しているものを提出してください。
- CHSI(中国教育部学歴認証センター)が発行する、英文の「学歴認証報告書」について
 - ・中国の教育機関を卒業された方は、中国教育部学歴認証センターまたは、中国教育部学歴認証センター日本代理機構(<http://www.chsi.jp/>)でも公証手続きを行っています。
 - ・「学歴認証報告書」は、CHSI から直接「nyushi@tokyo-ondai.ac.jp」にメールで届くよう、手続きを行ってください。英文以外の認証報告書や、出願者本人が受領し、本学へ転送した認証書は無効とします。
 - ・出願書類の準備に時間がかかる場合があります。詳細は、CHSI の Web サイトを確認の上、早めに手続きを開始してください。



志願者情報入力に関する注意事項

志願者氏名	パスポート、在留カードあるいは住民票に記載の氏名〔姓 (Family Name) 名 (First Name) の順に〕をアルファベットで入力してください。フリガナについては、通常使用する読みをカタカナで入力してください。
年齢	出願時の年齢を入力してください。
性別	男、女のいずれかを選択してください。
出生地	出身国名と都市名を入力してください。
志願者現住所	「 <input type="checkbox"/> 日本国外在住」の場合は <input type="checkbox"/> 欄にチェック(✓)を入れてください。現住所を日本語または英語で入力してください。マンション・アパート名、部屋番号、〇〇様方等まで必ず入力してください。 入学手続き書類の送付先となります。誤記や不備のないよう十分注意してください。 また、確実に連絡がとれる電話番号を必ず入力してください。出願書類等について緊急に連絡する場合があります。 *日本国内在住者は、在留カードまたは住民票に記載されたものと同様の住所を入力してください(在留カードに現住所が反映されていない者は、必ず新しい住居地の市区町村に届け出てください)。
本国住所	アルファベット表記で入力してください。マンション・アパート名、部屋番号等まで必ず入力してください。
写真	カラー、正面上半身脱帽、縦4:横3の比率で、3ヵ月以内に撮影したものをWeb出願サイトにアップロードしてください。眼鏡等の有無は問いません。
在留資格	日本国内在住者のみ入力してください。 「留学」、「その他」のいずれかを選択し、「その他」の場合は現在の在留資格を入力してください。
在留期限	日本国内在住者のみ入力してください。 在留カードまたは住民票に記載されている在留期限を西暦で入力してください。
上陸年月日	日本国内在住者のみ入力してください。直近の上陸許可年月日を入力してください。 パスポート貼付の上陸許可シールで確認してください。
パスポート番号	パスポートに記載されているアルファベットおよび番号を入力してください。
保護者	保護者は原則として、父母とします。志願者が20歳以上の場合も必ず入力してください。 住所は日本語または英語で入力してください。日本国外在住の場合は、指定の入力欄に入力してください。 また、電話番号は国番号から入力してください。
緊急連絡人(日本国内)	緊急連絡人は、日本語能力が十分で志願者に詳しく、日本国内に在住している者とします。 住所は日本語で入力してください。
日本語能力試験	「N1」、「N2」のいずれかを選択し、取得年を西暦で入力してください。

(3) 提出先

〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1 東京音楽大学入試課 電話 03-6455-2754(直通)

7. 試験会場

- ・東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス(東京都目黒区上目黒 1-9-1)
 - ・東京音楽大学 池袋キャンパス(東京都豊島区南池袋 3-4-5)
- ※試験会場・日程の詳細はメールにて通知する案内を参照してください。

<アクセス>



学校保健法で出席の停止が求められている感染症に関する注意事項について

学校保健安全法で出席停止が定められている感染症(新型コロナウイルス・インフルエンザ・はしか等)にかかり治癒していない場合、その感染症が他の受験者や試験監督者等に拡がるおそれがありますので、入学試験を受験することはできません。また、試験当日の検温により発熱があった場合や、通常とは異なる体調不良があり感染症に罹患している可能性がある場合も、受験をご遠慮願います。ただし、病状により医師が伝染の恐れがないと判断した場合は、この限りではありません。

上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、原則として、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日の体調には十分に注意してください。

尚、感染状況等により事情が変わった場合には、改めてホームページ等でお知らせします。

8. 入学手続

合格者には、合格発表後速やかに願書記入の現住所に入学手続書類を郵送しますので、以下の手順に従い、入学手続を行ってください(詳細は入学手続書類に同封する案内を参照してください)。期間内に手続を完了しない場合は、合格を取り消します。

*合格発表日から入学手続締切日までの日数が短いため、前もって入学手続の際に必要な提出書類の準備をしておいてください。

*提出された書類の記載事項に虚偽が判明した場合、合格または入学を取り消します。

*いったん提出された書類は、いかなる理由があっても返還いたしません。

(1) 入学手続時に必要となる書類

本学所定用紙の他に、以下の書類が必要ですので予め用意しておいてください。

- ① 住民票 ※3ヶ月以内に発行されたもの
日本国外在住者は、渡日後、速やかに市区町村で住民登録を行い、住民票を提出してください。「短期滞在」ビザでは住民登録はできませんので、必ず「留学」ビザに変更してから住民登録を行ってください。
- ② 大学入学資格証明書
高等学校を卒業見込の資格で受験した者および日本の大学に入学するための準備教育課程を修了見込の資格で受験した者のみ、その卒業証明書・修了証明書を提出してください(日本語または英語。コピー不可)。
- ③ パスポートのコピー
氏名・写真・パスポート番号が記載されたページのコピーを提出してください。
- ④ 在留資格認定証明書代理申請関係書類
日本国外在住者のうち、在留資格認定証明書の代理申請を大学に依頼する場合は、合格者に案内する関係書類を提出してください。

(2) 入学手続書類(詳細は入学手続書類に同封する案内でご確認ください)

- ①誓約書(連帯保証人が必要です) ②その他本学が指定したもの

(3) 提出先

〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1 東京音楽大学入試課

留学ビザ(査証)について

日本に在留する在留資格を有している場合

①「留学」ビザを有している者

在留資格更新許可申請は、在留期間が満了する3ヵ月前から可能です。ただし、在留資格に該当する活動を行うことなく3ヵ月以上滞在すると、在留資格取り消しの対象となりますのでご注意ください。

また、「留学」ビザの在留期間が入学後まで残っている場合にも、所属する学校に変更があった場合には、変更後14日以内に法務省東京出入国在留管理局へ「活動機関に関する届出」を提出することが義務付けられています。

②「留学」以外のビザで日本に滞在していて、「留学」ビザ取得を希望する者

在留資格変更申請をしてください。入学手続完了時に「入学許可書」を発行します。この「入学許可書」を使用し、日本国内で「留学」ビザに変更することが可能です。ただし、「短期滞在」ビザで日本に入国している者は、原則として日本国内で在留資格の変更は認められていないので、一度日本国外へ出て「留学」ビザを取得しなければならなくなることもあります。

※ 本学入学前に、日本において日本語教育施設または専修学校(日本語学校、大学・短期大学の日本語別科、その他各種専門学校等)に在籍している者は、在留期間更新・資格変更申請の際に、法務省東京出入国在留管理局から、在籍していた教育機関が交付する出席状況証明書の提出を求められます。在籍状況に問題がある場合は、不許可となる場合があります。

日本に在留する資格を有していない場合

本国の日本大使館または領事館にて「留学」ビザ発給の申請を行ってください。なお、予め本人または代理人が、法務省東京出入国在留管理局から「在留資格認定証明書」を取得し、これを使用して「留学」ビザ発給の申請を行うと、審査が円滑に行われるとされています。日本に親族や経費支弁者または奨学金支給者がいる場合は、法務省東京出入国在留管理局に「在留資格認定証明書」交付の代理申請を依頼してください。代理申請を本学が行うことを希望する者は、合格者に案内する必要書類を入学手続時に提出してください。

※ ビザ取得の審査は法務省が行うため、不許可となった場合、大学は一切責任を負いません。

※ 留学生を対象とする授業料補助および大部分の各種奨学金は、在留資格「留学」の者を対象としています。

留意事項

保証人について

出願時に保証人は必要ありませんが、合格後、入学手続き時には保証人が必要です。保証人は、原則として独立して生計を営む者で、次の優先順位により届け出てください。

- ① 日本に在住する親またはその他の親族
- ② 日本に在住しない親またはその他の親族
- ③ ①、②ともにいない場合に限り、日本に在住する知人など

※ 保証人は、入学手続き時の誓約書に各自の記入および捺印が必要となります。

緊急連絡先について

日本に在住し、次の役割を果たす人を届け出てください。出願時に緊急連絡先は必要ありませんが、入学時(4月初旬)には緊急連絡先が必要です。

緊急連絡先の役割は以下のとおりです。

- ① 在学中、留学生に諸問題が発生した場合には、本学と連絡を取り合う。また、本学から要請がある場合には、本人への連絡等適切に対応する。
- ② 本人が勉学活動を将来にわたって中断する等、その目的に応じた本邦滞在が困難となった場合には、適切な方法により休学・退学等について相談相手となる。

※ 緊急連絡先の例：日本に在住する兄弟姉妹、配偶者またはその他の親族、友人、知人等。できる限り社会人で独立して、生計を営み、日本語能力が十分である者が望ましいです。保証人と同一人物でも構いません。

(4) 学費その他の納入金

本学の学費については、以下のリンクをご覧ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/about/expenses>



「教育充実協力金」について

本学では、教育施設および設備の一層の整備充実のため、入学生保護者の皆様に寄付をお願いしております。ご寄付は原則として任意でございますが、一口 10 万円で一口以上のご協力をよろしく願います。なお、協力金に関する資料は入学許可後にお渡しいたします。

全専攻共通事項

1. 英語(面接形式による試験)
(英語を母語とする者または英語が公用語となっている国・地域に居住する者で、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けた者は免除する。ただし、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。)
※ミュージックビジネス・テクノロジー専攻志願者は、専攻の課題のページをご確認ください。
2. 日本語による小論文(60分)
※音楽文化教育専攻、作曲指揮専攻(作曲「ミュージック・メディアコース」、指揮)およびミュージックビジネス・テクノロジー専攻を除く(専攻別課題にて別途小論文を課す)
3. 楽典(50分)
※ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を除く
※今年度本学で実施の受験講習会にて、認定試験(楽典)で認定された者は、本入試での該当科目の試験を免除する。
4. 聴音、新曲視唱(声楽専攻は新曲視唱・聴音より1科目選択)
※ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を除く

【声楽、器楽専攻(鍵盤楽器を除く)、作曲「ミュージック・メディアコース」】

- (1) 新曲視唱:8小節程度の旋律を1曲
別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。
- (2) 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度) …… 各専攻共通1題および専攻別1題
和音聴音 …………… 高音部譜表による三和音、4小節程度

【問題例】 a moll イ短調 $\frac{2}{2}$ 拍子 4小節



【鍵盤楽器、作曲指揮(作曲「ミュージック・メディアコース」を除く)】

- (1) 新曲視唱:8小節程度の旋律を1曲
別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。
- (2) 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度) …… 各専攻共通1題および専攻別1題
和声聴音 …………… 大譜表による四声体和声(密集)、8小節程度

【問題例】 G dur ト長調 $\frac{2}{2}$ 拍子 8小節



5. 副科実技(ピアノ)

- ※暗譜で演奏すること。曲目記入票には楽章を明記すること。音楽文化教育専攻には課さない。
- ※声楽専攻(声楽芸術)、器楽専攻(オルガン、弦楽器、管打楽器)、作曲指揮専攻(作曲「芸術音楽コース」、指揮)のみ

【声楽専攻(声楽芸術)、器楽専攻(弦楽器、管打楽器)】

- (1) 音階:同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。
ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。
- (2) 自由曲:ソナチネ、ソナタ程度の楽曲を1曲、またはその任意の楽章を1つ。
※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

【器楽専攻(オルガン)】

- (1) 音階:同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。
ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。
- (2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)

【作曲指揮専攻作曲「芸術音楽コース」】

- (1) 音階:同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。
ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。
- (2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
- (3) 自由曲1曲(自作品不可)
(2)(3)計2曲で10分以内とする。作品番号、調性、楽章なども記入すること。

【作曲指揮専攻(指揮)】

- (1) 音階:同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。
ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。
- (2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
- (3) 古典派ソナタより任意の1曲(第1楽章または終楽章。専攻別曲目記入票に楽章を明記すること)
※作品番号、調性なども記入すること。

6. 専攻実技および面接

専攻実技は、下記の志望する専攻の課題曲を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。演奏後、日本語による面接を行う。

声楽芸術

(1) 課題曲: 次の課題曲表から 3 曲を選ぶこと。その中から当日 1 曲を指定する。

※歌詞は原語で暗譜で歌うこと。

※演奏の途中で打ち切る場合がある。

※()内のアルファベットは調性を表す。これら以外の調で歌う場合は移調譜を出願書類と共に提出すること。

No.	曲名	作曲者
①	Già il sole dal Gange (B, As, G)	A. Scarlatti
②	Se tu della mia morte (g, f, e)	A. Scarlatti
③	Sento nel core (g, f, es)	A. Scarlatti
④	Lasciar d'amarti (g, f, d)	F. Gasparini
⑤	Star vicino (A, B, G)	L. Mancina (伝 S.Rosa)
⑥	Sebben, crudele (e, d, c)	A. Caldara
⑦	Vergin, tutto amor (d, c, h)	F. Durante
⑧	Nina (g, fis, e, d)	作曲者不詳
⑨	Nel cor più non mi sento (F, G)	G. Paisiello
⑩	Sogno (B, As, Ges)	F. Tosti
⑪	An Chloe (Es, C)	W. A. Mozart
⑫	Ich liebe dich (G, F)	L. v. Beethoven
⑬	An die Musik (D, C, B)	F. Schubert
⑭	Geheimes (As, F, Es, D)	F. Schubert
⑮	Lachen und Weinen (As, F, E)	F. Schubert
⑯	Die Lotosblume (F, Es, Des)	R. Schumann
⑰	Widmung (As, Ges, F)	R. Schumann
⑱	Dein blaues Auge (Es, D)	J. Brahms
⑲	Sonntag (G, F, Es)	J. Brahms
⑳	Zueignung (C, A, G)	R. Strauss
㉑	秋の月 [山田耕筰 編曲] (h)	滝 廉太郎
㉒	荒城の月 [山田耕筰 編曲](1,2 番) (d, c)	滝 廉太郎
㉓	母 (As, G, F)	小松 耕輔
㉔	この道 (1,2 番) (E, D)	山田 耕筰
㉕	北秋の『沙羅』より (D, Des)	信時 潔
㉖	行々子 『沙羅』より (Fis, F)	信時 潔
㉗	浜千鳥 (Es, C)	弘田 龍太郎
㉘	浜辺の歌 (1,2番) (As, F)	成田 為三
㉙	ゆりかご (E, D)	平井 康三郎
㉚	むこうむこう (F)	中田 喜直

(2) 自由曲: 1 曲 (4 分以内)。ただし、(1)の課題曲表以外の曲目とする。

※日本歌曲、ミュージカルナンバー可*。

※オペラ・アリアは原調で歌うこと。

※伴奏譜を出願書類と共に提出のこと(前奏、間奏、後奏のカット可。その他の部分のカットが記載されている場合は、本学で確認し、内容によっては訂正を求めることがある)。

※伴奏者は大学が用意する。

*ミュージカルナンバーについて

- ・訳詞による歌唱可。言語は限定しない。
- ・マイクの使用不可。
- ・伴奏譜は出版譜に限る。

(3) コールユーブンゲン

第1巻の原書番号 Nos.48~51,56~59 の中から試験の際 1 曲を指定する。(『全訳コールユーブンゲン』大阪開誠館)。移動ド唱法または固定ド唱法のいずれでも可。

試験室においてピアノによりカデンツァおよび開始音が与えられる。

ピアノ

暗譜で演奏すること。

次のa課題またはb課題を選択すること。

a課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。
- (2) 次の(イ)～(ホ)の練習曲集より任意の2曲(同一作曲家の組み合わせでなくても可)
 - (イ) モシユコフスキー Op. 72
 - (ロ) クレメンティ(タウジヒ編による29の練習曲より選択のこと)
 - (ハ) チェルニーOp. 740 (50番練習曲)
 - (ニ) モシェレス
 - (ホ) ショパン Op. 10、Op. 25 (Op. 10 No. 6、Op. 25 No. 7を除く)
- (3) 自由曲(5分以上 8分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること。)省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

b課題

自由曲(12分以上 17分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)省略は認めない。
ただし、繰り返しはその限りではない。

ピアノ演奏家コース

暗譜で演奏すること。

次のa課題またはb課題を選択すること。

a課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。
- (2) ショパン『練習曲集』Op.10、Op.25より任意の2曲(Op.10 No.6、Op.25 No.7を除く)
- (3) 次の①または②を選択すること
 - ①(イ)～(ト)の練習曲集より任意の1曲
 - (イ) リスト
 - (ロ) ドビュッシー
 - (ハ) スクリャービン Op. 8、Op. 42、Op. 65
 - (ニ) ラフマニノフ Op. 33、Op. 39
 - (ホ) プロコフィエフ Op. 2
 - (ヘ) バルトーク Op. 18
 - (ト) リゲティ
 - ②ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのソナタの中から、任意の楽章を1つ
- (4) 自由曲(12分以上 15分程度。複数曲を演奏する場合は、楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

b課題

自由曲(25分以上 30分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※器楽専攻(ピアノ演奏家コース)の受験結果により、器楽専攻(ピアノ)に合格となる場合がある。

1. ピアノ実技 次の a 課題または b 課題を選択すること。

暗譜で演奏すること。

a課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意のプレリュードまたはフーガ1曲
- (2) 次の(イ)～(ホ)の練習曲集より任意の1曲
 - (イ) モシユコフスキー Op.72
 - (ロ) クレメンティ (タウジヒ編による29の練習曲より選択のこと)
 - (ハ) チェルニー Op.740 (50番練習曲)
 - (ニ) モシエレス
 - (ホ) ショパン Op.10、Op.25 (Op.10 No.6、Op.25 No.7を除く)
- (3) 自由曲 (5分以上8分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること。) 省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

b課題

自由曲 (12分以上17分程度。1曲または複数曲の組合せでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること) 省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

2. 創作

自作の楽譜を1曲、出願書類と共に提出すること。編成および曲の長さは自由とする。

例: ピアノ独奏曲、電子オルガンを含むアンサンブル作品等

チェンバロ

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
- (2) D. スカルラッティの任意のソナタを1曲
- (3) 通奏低音
『クラヴィス』(現代ギター社刊)pp.80-84 の練習 1～10のうちから、当日指定されたものを、右手用のガイドなしで演奏する。
※いずれも暗譜の必要なし。
※楽器は二段鍵盤チェンバロ(音域 FF～f3、8'8"4、a1=415)

オルガン

- (1) J. S. バッハ『オルガン小曲集』(Orgelbüchlein BWV 599-644)から任意の5曲
- (2) 任意のオルガン曲1曲(コラル編曲以外の作品とする)
※暗譜の必要なし。
※アシスタントの要、不要を専攻別曲目記入票に記入すること。
※試験日以前に、レジストレーションのための若干の練習時間を与える。

ヴァイオリン

(1) 音階および分散和音

Carl Flesch : Scale system (C. フレッシュ『スケール・システム』より、任意の長調または短調を選び、第5、6、7、8番を演奏する。運指の指定なし。

①第5番は冒頭から12小節目までを演奏する。♩=60以上(スラーは下記のC-durに準ずる)

②第6、7、8番は各々冒頭から4小節目までを、速やかに続けて演奏する。♩=60以上(スラーは16分音符4個以上とする。1小節2弓でも可。下記の第6番参照)

第5番 ♩=60以上

第6番 ♩=60以上

(2) 練習曲

P. Rode、J. Dont (Op.35)、N. Paganini の練習曲、カプリスより任意の1曲、または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の1曲

(3) 任意の協奏曲より第1楽章(カデンツァを含む)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※演奏によりヴィオラに適正がありと認め得る受験者は、ヴィオラで合格となる場合がある。

※(1)~(3)の順で演奏すること。

ヴィオラ

(1) 音階および分散和音

Carl Flesch : Scale system より、任意の長調または短調を選び、第5、6、7、8番を演奏する。運指、運弓の指定なし。

①第5番は冒頭から12小節目までを演奏する。♩=60以上(スラーとリズムはC-durに準ずる)

②第6、7、8番は各々冒頭から4小節目までを、速やかに続けて演奏する。♩=60以上(スラーは16分音符4個以上とする)

(2) B. Campagnoli : 41 Caprices (B. カンパニョーリ『41のカプリース』から任意の1曲、または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の1曲

(3) 次の(イ)~(ニ)より任意の1曲

(イ) Johann Christian Bach : 協奏曲ハ短調より 第1楽章

(ロ) C. Stamitz : ヴィオラ協奏曲ニ長調作品1より 第1楽章(カデンツァを含む)

(ハ) F. Hoffmeister : ヴィオラ協奏曲ニ長調より 第1楽章(カデンツァを含む)

(ニ) 上記の(イ)~(ハ)と同程度もしくはそれ以上の曲から1曲(版の指定なし)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※ヴァイオリンによる受験可。出願書類の志望欄にヴィオラと記入し、ヴァイオリンの課題で受験すること。

※(1)~(3)の順で演奏すること。

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。運指およびテンポの指定なし。

【音階】



【分散和音】



(2) 練習曲

次の(イ)～(ハ)より任意の1曲

(イ) D. Popper : Hohe Schule des Violoncellspiels, op. 73 (ポツパー:40の練習曲)

(ロ) J. L. Dupport : 21 études (デュポール : 21の練習曲)

(ハ) A. Schroeder : 170 foundation studies for violoncello, 2 (シュレーダー:170の基礎練習 第2巻)

(3) 任意のチェロ協奏曲より第1楽章または最終楽章

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

コントラバス

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。



(2) 下記のいずれかを選択すること。

(イ) 任意のソナタより第1楽章と第2楽章

(ロ) 任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章

※オーケストラチューニング、暗譜で演奏すること。

※(2)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に準ずる)。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

ハーブ

- (1) F. J. Naderman : 7 Sonates progressives, Op.92 より任意の第 1 楽章
- (2) 自由曲 (J. L. Dussek のソナタと同程度の難易度の作品) を 1 曲
※暗譜で演奏すること。伴奏なし。
※(1)、(2)の順で演奏すること。

クラシックギター

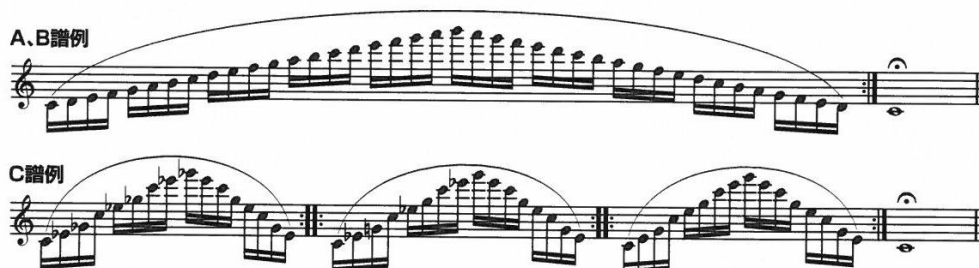
- (1) F. Sor または H. Villa-Lobos の練習曲より任意の 1 曲
- (2) 自由曲 1 曲
※暗譜で演奏すること。伴奏なし。
※(1)、(2)の順で演奏すること。

木管楽器


フルート

- (1) 音階と分散和音
M. Moyses : Exercises journaliers pour la flûte (M. モイーズ『フルートのための日課練習』)より長音階 (A)、短音階 (B)、分散三和音 (C)を演奏する。演奏箇所は当日指定する。♩ = 60 (譜例参照)

A、B譜例



C譜例



- (2) J. Andersen: 24 Studies for flute, Op. 15 (J. アンデルセン『24のエチュード 作品 15』)より No. 3, No. 18
- (3) W.A. Mozart: フルード協奏曲 第 1 番ト長調 K. 313 より第 1 楽章(カデンツァは含まない)

※いずれも版の指定なし。暗譜の必要なし。

※(3)の伴奏者は大学が用意する(楽譜の提出不要)。前奏は Solo の 4 小節前より始める。

オーボエ

- (1) 音階
次の A、B いずれかの音型によって長音階と短音階を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜。

A例



B例



- (2) F. W. Ferling : 48 Etudes, Op.31 (F. W. フェルリンク『48のエチュード』) Nos.5-10 の中から当日指定する。
※(2)は版の指定なし。暗譜の必要なし。

クラリネット

- (1) 音階
R. Eichler : Scales for Clarinet より各調の 1 番をスラーで演奏すること。調性は当日指定する。暗譜。
- (2) E. Cavallini : 30 Capricci (Ricordi)より Nos.16,19,22 の 3 曲。演奏箇所は当日指定する。
- (3) C.M.v ウェーバー : クラリネット小協奏曲 変ホ長調 作品 26 (カデンツァは演奏しない)。
※伴奏者は大学で用意する(楽譜の提出不要)。前奏は Solo の 3 小節前より始める。

ファゴット

(1) 音階

次の音型によって、長音階と和声的短音階を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜。



(2) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol.2 の Nos.1-15 より当日2曲を指定する。

(3) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol.2 の Nos.22-43 より任意の1曲

※(2)(3)は暗譜の必要なし。

サクソフォーン

アルト・サクソフォーンで受験すること。

(1) 音階

次の音型によって、長音階と和声的短音階をスラーで演奏すること。調性は全調の中から当日指定する。暗譜。繰り返しなし。

音階譜例



(2) F. W. Ferling : 48 études pour tous les saxophones (F. W. フェルリング『サクソフォンのための48の練習曲』[M. ミュールによる増補改訂版] A. Leduc)より、任意の奇数番号1曲と任意の偶数番号1曲の計2曲を演奏すること。

(3) 自由曲1曲 (編曲作品可。抜粋の場合は、楽章等を専攻別曲目記入票に明記すること)

※(2)(3)は暗譜の必要なし。伴奏なし。

金管楽器

金管楽器

音階および分散和音

ホルン、トロンボーン、バス・トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム共通課題

次の例にしたがって、長音階と短音階を暗譜で演奏すること。調性、音域は当日指定する。暗譜。繰り返しなし。



ホルン

(1) 音階および分散和音 (前掲の譜例参照)

調性、音域は当日指定する。

(2) W. A. Mozart : ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447より 第1楽章(カデンツァなし)

※(2)は暗譜の必要なし。伴奏者は大学が用意する(伴奏譜の提出不要)。前奏は Solo の4小節前より始め、それ以降のカットなし。

トランペット

- (1) Théo Charlier: 36 études transcendantes (Alphonse Leduc 版) より No.2 “Du style”
- (2) 以下の 4 曲より 1 曲を選択し演奏。
 - ①Théo Charlier: Solo de concours (Schott 版)
 - ②Camille Saint-Saëns: Fantaisie en mi bémol (Alphonse Leduc 版)
 - ③Roger Boutry: Trompetunia (Alphonse Leduc 版)
 - ④André Chailleux: Morceau de concours (Alphonse Leduc 版)※暗譜の必要なし。伴奏者は大学が用意する(伴奏譜の提出不要)。

トロンボーン

- (1) 音階および分散和音 (前掲の譜例参照)
調性、音域は当日指定する。
- (2) J. Rochut: Melodious Etudes for Trombone. Book 1. Edited by Alan Raph (C. Fischer)よりNo.8
- (3) G. Kopprasch: 60 Etudes for Trombone (G. コブラッシュ『60のエチュード(トロンボーン)』(全音楽譜))
よりNo.15、No.40
※繰り返しなし。暗譜の必要なし。

バス・トロンボーン

- (1) 音階および分散和音 (前掲の譜例参照)
調性、音域は当日指定する。
- (2) O. Blume: 36 Studies for Trombone with F Attachment (C. Fischer) よりNos.5、23、25
※暗譜の必要なし。

テューバ

- (1) 音階および分散和音 (前掲の譜例参照)
調性、音域は当日指定する。
- (2) 練習曲
以下の中から当日指定する。いずれも途中でカットする場合がある。
G. Kopprasch: 60 Selected Studies(R. King Music) Nos.12, 14, 16, 20, 22
M. Bordogni : 43 bel canto studies (R. King Music) Nos.1, 4, 7, 12, 14
- (3) J. S. Bach : Air and Bourrée (Wm. J. Bell 編曲)
※(2)(3)は暗譜の必要なし。版の指定なし。
※(3)の伴奏者は大学が用意する(伴奏譜の提出不要)。

ユーフォニアム

- (1) 音階および分散和音 (前掲の譜例参照)
調性、音域は当日指定する。
- (2) J. Rochut : Melodious Etudes for Trombone の Nos.3, 4, 5 から当日指定する。
- (3) J. B. Arban : Variations on a Song “Vois-tu la neige qui brille” (The Beautiful Snow)
(「輝く雪」の歌による変奏曲) *Arban's Complete Conservatory Method* 所収
※(2)(3)は暗譜の必要なし。版の指定なし。
※(3)の伴奏者は大学が用意する(伴奏譜の提出不要)。前奏なし。
[使用楽譜] J. B. アーバン『12の幻想曲とアリア』No.5 (ISR Collection, 全音楽譜)

打楽器

ティンパニ、小太鼓、マリンバのいずれかの課題で受験すること(出願書類に楽器を記入すること)。

ティンパニ

- (1) ロール *pp* \leftarrow *ff* \rightarrow *pp* Es(変ホ)(30秒以上)
- (2) R. Hochrainer : Etüden für Timpani. Heft 1 (Doblinger) Nos.19, 26, 39, 40, 43, 44 より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) 小太鼓による2つ打ち(響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと)
- (5) マリンバによる2オクターヴの長音階と短音階(調性は当日指定。音型は自由。但し、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する)

小太鼓

- (1) 2つ打ち、ロール *pp* \leftarrow *ff* \rightarrow *pp* (30秒以上)(響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと)
- (2) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm. Nos.1, 4, 12, 13, 31 より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) マリンバによる2オクターヴの長音階と短音階(調性は当日指定する。音型は自由。但し、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する)。

マリンバ

- (1) 3オクターヴの長音階、短音階、分散和音(調性は当日指定する。音型は自由。但し、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する)。
- (2) M. Goldenberg : Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone (Alfred Music)の39 EtudesXV(15番)
- (3) 自由曲(伴奏なし)
- (4) 簡単な初見演奏
- (5) 小太鼓による2つ打ち(響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと)

作曲指揮専攻

作曲「芸術音楽コース」

- (1) 和声 (イ) 転調および非和声音を含むバス課題(2時間)
(ロ) 転調および非和声音を含むソプラノ課題(2時間)
- (2) 作曲 与えられた動機による楽曲の創作(5時間)
- (3) 面接 10分程度(作曲を志した動機等)

作曲「ミュージック・メディアコース」

専攻課題

- (1) 伴奏付け: 譜面作成とそのピアノ演奏(1時間)
 - ① 与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。
(譜面作成時、備え付けのキーボード使用可)
 - ② ①で「伴奏／コード付け」した結果を、面接時にピアノで演奏する。
- (2) 和声(2時間)
 - ① 転調を含むバス課題。
 - ② 簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。※①バス課題から着手のこと。試験開始後1時間で①の答案を回収する。
- (3) 小論文(1時間)
当日出題される課題について、簡単な文章を書く。
- (4) 面接とプレゼンテーション
 - ① 面接
作曲に対する意識、今後、作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。また特別な音楽的能力を有する者は面接でアピールすることができる。(注1参照のこと)
 - ② ピアノ演奏
自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない(ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可)。(注2参照のこと)
 - ③ 伴奏付け(専攻課題(1))の実演
専攻課題(1)伴奏付けにおいて与えられた旋律に対して行った「伴奏／コード付け」をピアノで演奏する。
 - ④ 自作曲の評価
自作曲のデモ音源、楽譜(スコア等)を持参し、面接時にアピールすること(注3参照のこと)

注1 面接について

アピールしたい受験者は、楽器演奏や音楽制作に携わった作品の映像(動画ファイル)を面接時に提出すること(ライブ、コンサート等の映像も可とする)。
複数曲の提出を可とするが、各映像の長さは5分未満とする。
また、映像内で受験者本人を確認(本人の姿やクレジット表記)できるものとする。
動画ファイルの拡張子は mov または mp4 のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。
《当日の楽器演奏を希望する場合》
ギター、ベース、ヴァイオリン、フルート等の楽器演奏を面接時に希望する場合は、楽器を持参すること。
ギターアンプ、ベースアンプは備え付けのものを使用する。演奏を希望する楽器名、楽曲名は曲目記入票に記入すること。
電子オルガン等、複数人での移動を必要とする大型楽器の持込みは不可とする。その場合は動画ファイルを提出しアピールすること。

注2 ピアノ演奏について

- ① 基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。
- ② 自作曲のピアノ演奏を行う場合は、(4)④の自作曲の評価で提出する曲とは異なる作品にすること。

注3 自作曲について

複数曲可。ただし、各曲の長さは5分未満とする。楽曲のスタイルやジャンルは自由だが、デモ音源は試聴するための十分な状態を満たすこと。
《デモ音源、楽譜の提出について》
① デモ音源は、オーディオファイルで用意すること。オーディオファイルの拡張子は wav、aif、mp3 のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。また複数曲の場合は、試聴する順に番号をファイル名の先頭に入れること。
(例:01_song.wav)
② 楽譜(スコア等)を4部面接時に持参すること。簡易でもよいので製本をすること。視聴後、楽曲の部分的な演奏を指示する場合がある。その場合、基本的に使用する楽器はピアノとする。

指揮

- (1) 聴音: 旋律(単旋律、二声および四声)の書き取り(四声は木管四重奏の録音による)。
 - (2) 全ての音部記号を用いた旋律の初見視唱。
 - (3) 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い。
 - (4) スコアリーディング(2管編成程度の管弦楽曲)
 - (5) 指揮実技
 - (イ) 2管編成程度の管弦楽曲の初見指揮(演奏は2台のピアノによる)
 - (ロ) ベートーヴェン: 交響曲 第4番 変ロ長調 作品 60(演奏は2台のピアノとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる)
 - (ハ) モーツァルト: 歌劇『魔笛』序曲(演奏は2台のピアノによる)
- ※(ロ)(ハ)は暗譜で演奏(指揮)すること
- (6) 演奏実技(ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可)
 - (7) 和声(バス・ソプラノ課題「初級程度」1時間)
 - (8) 小論文(1時間)
 - (9) 口述試問

音楽文化教育専攻

- (1) 小論文
当日出題する課題について800字程度で論じる。(1時間)
 - (2) 口述試問(任意の演奏手段による音楽実技)
 - ・志望動機、将来の希望などとともに、試験において作成した論文の内容について問う。
 - ・音楽実技は声楽を選択した場合は自由曲1曲、器楽を選択した場合は3分以上5分程度の自由曲(複数曲可)
 - ・鍵盤楽器以外の実技を選択した場合は「基礎ピアノ」*を課す
*「基礎ピアノ」(2~3分程度の自由曲1曲。レベル、ジャンルは問わない)
- ※受験者で声楽を選択した場合のみ大学が伴奏者を用意する。
伴奏譜は出願書類と共に提出すること。
- ※任意の演奏手段による音楽実技、基礎ピアノ共に暗譜の必要なし。
- ※任意の演奏手段による音楽実技について
- ① 以下の楽器のみ貸出します。
ピアノ、電子オルガン(ヤマハエレクトーン ELS-02C)、コントラバス、ハープ、テューバ、マリンバ
 - ② 自作曲(編曲を含む)に限り出願書類と共に楽譜を提出すること(製本しないこと)。

ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

- (1) 選択科目
以下より1つを選択する。
 - ① 英語(面接形式による試験)
英語を母語とする者または英語が公用語となっている国・地域に居住する者で、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けた者は免除する。ただし、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。
 - ② 数学
出題範囲: 数学 I・数学 A、数学 II・数学 B(1時間)
- (2) 小論文
当日出題する課題について800字程度で論じる。(1時間)
- (3) 面接
本学を志望した理由について述べるほか、試験委員からの質問に教えてください。

■受験上の注意

- ①試験当日の集合時間など受験に関する詳細は、試験初日の3日前までにメール等で通知しますので、必ずご確認ください。試験日時・会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。
- ②試験当日の大まかな流れは原則として以下のとおりです。定められた時刻までに集合場所に集合し、以降は全て係員の指示に従ってください。**集合・受付** → **直前練習** → **試験**
- ③実技試験において集合時刻に遅れた者は受験を許可しません。やむを得ない事情(公的事情)により遅刻をした場合は、直ちに係員に申し出てください。
- ④練習室は貸出しません。
- ⑤試験当日に持参するもの
 - ・受験票(各自で忘れずに印刷してください。受験票を持たない者は入構できません)
 - ・筆記用具
 - ・昼食(試験が昼食時間におよぶ場合)
- ⑥保護者の入構はできません。
- ⑦服装については、特に指定しません。

■出願書類の記入・提出に関する注意

Web 出願サイトでユーザー登録を行った後、本学ホームページから必要書類を印刷します。(5～7 ページ参照) 印刷した出願書類とそれ以外の必要書類(調査書等)は、すべて揃っていることを確認の上、期限内に郵送にて提出してください。本学の窓口では受け付けません。出願後の提出書類の変更は認めません。また、提出された書類は返還しません。

出願書類の記入については、以下の注意事項をよく読み、誤りや漏れのないよう記入してください。

- (1)各出願書類は、黒、青インクまたはボールペンを使用し、文字は楷書で、数字は算用数字で正確に記入してください。書き損じた場合は、二重線を引いて訂正印を押し、空いているところに記入してください(修正液・修正テープは使用しないでください)。
- (2)該当欄は記入または○で囲んでください。※欄は記入不要です。
- (3)願書および受験票には Web 出願サイトでアップロードした写真が用いられます。カラー、正面上半身脱帽、縦4:横3の比率で、3ヵ月以内に撮影したものを Web 出願サイトにアップロードしてください。眼鏡等の有無は問いません。
- (4)曲目記入票について
 - ①演奏する曲目、作曲者、調名、作品番号、楽章等まで該当する欄に詳しく記入してください。
 - ②作品番号は、「Op.30 No.2」のように明確に、漏れのないよう記入してください。
 - ③楽章等の記入は、「第1楽章」「第2楽章」と「第」を入れて記入してください。
 - ④曲目等の記入は、特に指定がなければ、邦語、原語どちらでも構いません。
 - ⑤ピアノ自由曲で一部省略する場合は、その箇所を記入してください。
 - ⑥出願後は、受験曲名、調の変更(訂正)は認めないので、間違いのないように正確に記入してください。
 - ⑦曲目記入票に記入された事項(作曲者、曲目、調名、平均律巻名、楽章等)が試験で演奏したものと異なる場合、原則として失格になりますので注意してください。
- (5)伴奏譜について
声楽、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスを志望する志願者は、伴奏譜を出願書類に同封してください。伴奏譜の作成方法等は25ページ「伴奏譜の提出について」を参照してください。

※個人情報の取り扱いについて

- ①本学は、志願者の出願書類に記載された個人情報および入学試験の成績を入学試験業務に利用します。なおこれらの個人情報は個人情報保護法に則り万全の体制で管理します。
- ②本学は、上記の個人情報を大学入学者選抜および大学教育の改善のための調査・研究や学術研究の資料としても利用します。調査・研究結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。
- ③本学は、願書記載事項のコンピュータ登録業務、受験票、合格証、入学手続書類等の発送の業務を、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結したうえで、外部の事業者へ委託する場合があります。

■ 入学者選抜試験における不正行為について

受験の際には、すべて試験監督の指示に従ってください。以下に該当する場合、不正行為とみなされます。

- ① 出願の際に本学に提出した書類・資料等に偽造、虚偽の記載、剽窃が見つかった場合
 - ② 受験生以外の者が、受験生本人になりすまして試験を受けた場合
- また、以下の行為をすると、不正行為とみなされる場合があります。
- カンニング（カンニングペーパーや参考書、他の受験生の答案を見ること、他の受験生から答えを教わること等）をすること。
 - 使用を認められていない用具を使用して問題を解くこと。
 - 試験開始の合図の前に問題冊子を開き、解答を始めること。
 - 試験終了の合図の後に筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けること。
 - 試験時間中に、他の受験生に答えを教えるなど、他の受験生を利するような行為をすること。
 - 試験時間中に、他の受験生に迷惑となる行為をすること。
 - 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ウェアラブル端末（腕時計型等）を身につけたり、作動させたりすること。
 - 非対面式試験において、「同意書」に記載の内容に反する行為をすること。
 - その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

試験実施中に不正行為と思われる行為が認められた場合、試験監督が注意し、試験の中止や退室を指示することがあります。不正行為の疑いに対処した時間があっても、その受験生は、試験時間の延長を求めることはできません。

不正行為と認められた場合、それ以降の受験はできなくなり、当該年度における本学のすべての入学試験の結果を無効とします。また、入学検定料は返還しません。

■ 伴奏譜の提出について

声楽、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスで受験される方は、以下の要領で課題の伴奏譜を出願書類と共に提出してください（指定課題の曲目を演奏する場合であっても提出してください）。

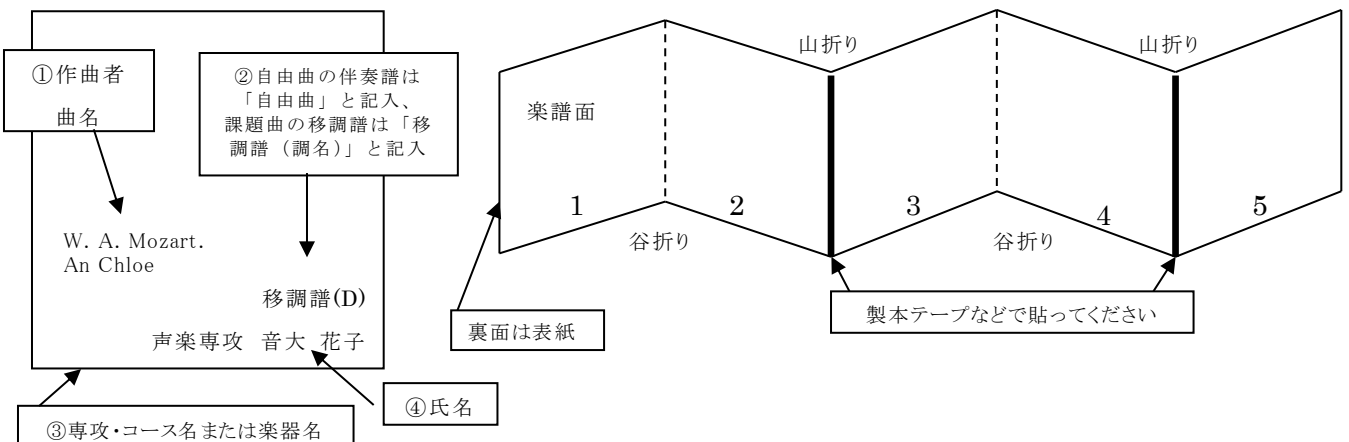
声楽専攻で受験される方は、自由曲および課題曲で課題曲表のカッコ内に記入してある調以外で受験する場合の移調譜を提出してください（課題曲カッコ内の調で受験する場合は、伴奏譜の提出は必要ありません）。

※伴奏譜の分量の関係で出願書類送付用の封筒に入りきらない場合は、出願期間中に本学入試課まで別送してください。

○ 伴奏譜作成手順

- ・楽譜は1ページA4縦とし、ページ抜けがないようにしてください。
- ・1 曲ごとに表紙をつけ、表紙右下に①作曲者・曲名、②自由曲伴奏譜・移調譜の区別、③専攻・コース名または楽器名、④氏名を記入してください。
- ・2 ページ以上になる場合は、アコーディオン状に折って、製本テープ（無地のマスキングテープ）等で貼ってください。セロファンテープは使用しないでください。
- ・コピーの濃淡等を調整の上、鮮明な楽譜を提出してください。
- ・手書きの伴奏譜を作成する場合は、定規等を使用し、正しく丁寧に記入してください。また、鉛筆ではなく、黒ボールペン等で清書した譜面を提出してください。

<表紙の書き方>裏面は楽譜 1 ページ目



■ 創作曲楽譜について（ピアノ・創作コース志願者のみ）

創作曲楽譜について

- ① 楽譜は、鮮明な自筆あるいはコピーとし、コンピュータ浄書も可とします。
- ② 表紙に曲名、受験番号、氏名を記入し、簡易に製本してください（ホッチキス止め可）。
- ③ 譜面各ページの右上に氏名を必ず記入してください。また、ページ番号を表記してください。

■奨学金制度について

本学の奨学金制度については、以下のリンクをご覧ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/12765.php>



■学生寮（女子）について

自宅からの通学が困難（通学時間3時間以上を目安）な学生(女子)に対し、学生寮が設けられています。

(1) 申込方法

入寮希望者は、合格者に送付する合格証等の書類に同封されている「2024年度東京音楽大学学生寮入寮申込書」に必要事項を記入のうえ、入学手続書類に同封し郵送してください。

(2) 選考

新年度の入寮可能数内で入学試験の成績・調査書類等を総合的に考慮のうえ大学が決定します。申込者多数の場合、入学試験に合格しても入寮許可にならない場合があります。

(3) 発表・手続

- ①入寮を許可する者には、大学から直接通知します(12月下旬予定)。
- ②入寮許可後に辞退する場合は、至急学生支援課へ電話でご連絡ください。
- ③入寮手続の詳細は、大学からの入寮許可通知とともにお送りする入寮手続書類を参照ください。

(4) 施設・設備

- ①所在地 〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-22-10(池袋キャンパス敷地内)
- ②収容定員 124名(高校生20名を含む)
- ③建物の構造 地上5階
- ④寮室面積 約8㎡
- ⑤寮室備品 デスク、収納棚、ベッド、エアコン、冷蔵庫 ※Wi-Fi完備
- ⑥付帯設備 ラウンジ、浴室、洗面所、洗濯室、パソコン、コピー機

(5) 入寮費用

入寮金(入寮時のみ)	寮費
80,000 円	78,000 円(月払い・食費込) ※朝・夕 2食(日・祝含む)

- ①寮費(月額)は、1年間にかかる総額の12等分となります。
- ②上記費用は、物価の高騰等により値上げする場合があります。

(6) その他

- ①お盆および年末年始の指定日は、閉寮となります。
- ②入寮申し込みの際には、必ず入寮案内で詳細を確認してください。
- ③不明な点は、学生支援課(TEL 03-6455-2756)までお問い合わせください。

東京音楽大学

【中目黒・代官山キャンパス】

〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1

【池袋キャンパス】

〒171-8540 東京都豊島区南池袋 3-4-5

ホームページアドレス <https://www.tokyo-ondai.ac.jp/>

問い合わせ先:03-6455-2754(入試課直通) 日・祝日除く 9:00~17:00

03-6455-2774(FAX)